学習内容報告書 フォーマット

学校名	新潟市立真砂小学校
授業者	第４学年　小林　泉、後藤　大介、渡邉晴佳

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

見つめよう真砂の自然・守ろう自然環境

1-2.　学年

第４学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

26 年間続けている海岸清掃を通して、マイクロプラスチック問題や外国からのごみの漂着などに気付き、大好きな真砂の海を守るために、啓発ポスターを作成し、海を利用する人々に呼び掛ける。

また、自分たちの取組を見直し、発展させるために、海洋教育パイオニアスクール指定校の海を守る活動を調べ、交流する。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

昨年度、海岸清掃から学びを深め、海を守る啓発活動へとつながる単元を構築した。

しかし、その取組も環境保全の取組としては、数ある取組の中の一つに過ぎない。自分たちの取組を客観的に振り返るために、海洋教育パイオニアスクールに指定されている全国の小中学校の取組と比較し、自分たちの取組のよさを実感したり、自分たちにない新たな視点を取り入れたりする。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

○　自分たちの地域への環境美化意識の向上
○　効果的な啓発活動を行う情報発信力
○　他校との取組を比較し分析する力
○　他校の取組に学ぶ謙虚な態度

1-7.　単元の展開（全４０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
20	○　海岸清掃に取り組むことを通じて、地域の環境美化への意識を高め、啓発活動に取り組む。 ・全校海岸清掃に取り組む。 ・海岸に落ちているごみの種類を調査する。 ・外国から漂着するごみを知る。 ・地域の海の環境を守るために、何ができるかを考える。 ・海の環境保全を働き掛ける啓発ポスターを作成し、掲示してもらう。	○　海岸清掃に取り組むことを伝え、どのような取組をしてみたいかと問う。 ○　海岸清掃を通して、気付いたことを問う。 ○　地域の海の環境を守るために、何ができるかと問う。 【外部連携】啓発ポスターを展示してもらえる地域の施設を探し、お願いする。 【評価】自分たちの思いを込めた啓発ポスターを作成することができたか。
10	○　全国の海洋教育パイオニアスクール指定では、どのような海の環境保全活動に取り組んでいるかを調査する。 ・自校の取組と比べて、新たな取組をしている学校を見付け、興味関心を高める。また、自分たちの取組との共通点や相違点を明らかにする。 ・もっと知りたいことをまとめ、連絡を取りたいと思う。	○　自分たちの海の環境を守るために、他にできることはないかと問う。 ○　自分たちの取組との共通点や相違点を問う。 ○　関心のある学校の取組について不明な点やもっと知りたいことを問う。
10	○　相手の学校と交流する。 ・それぞれの取組を発表し合う。また、相手の取組について不明な点を質問する。 ・相手の学校の取組のよさや自分たちにとっての新たな学び、今後取り組みたいことを発表する。	○　自分たちの取組を発表させる。また、不明な点について、丁寧な聞き方で質問する。 ○　相手の学校の取組のよさを問い、交流によって生まれた成果を問う。

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　40　時間中の　21　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

○　全国の小中学校が取り組む環境美化活動に興味をもち、調べる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
○　これまでの自分たちの取組を振り返る。 ・海岸清掃を行って大量のごみを拾った。 ・ごみの多くはプラスチックで、マイクロプラスチックとなって生き物に害を与える危険がある。 ・外国からもたくさんのごみが漂着している。もしかすると日本のごみも外国に流れている。 ・海の環境を守るために啓発ポスターを作成し、地域のお店に展示してもらった。	○　これまでの取組を振り返りましょう。どんなことをしてきたかな。
○　他にできそうなことを問う。 ・何度も海に通って、ごみを拾う。 ・他には思い浮かばないよ。	○　他に私たちはどんなことができるだろうか。
○　海洋教育パイオニアスクール指定校の取組を閲覧し、気付いたことを発表する。 ・海岸清掃している学校があるよ。 ・海から離れたところでも指定校があるよ。 ・海産物の保護を行っている学校があるよ。真砂の海にはどんな魚や海藻があるのかな。 ・同じ新潟県では、佐渡や上越市で同じようにがんばっている学校があるんだね。 ・もっと詳しく見たい、知りたいな。	○　海洋教育パイオニアスクール指定校の一覧が載るホームページを紹介し閲覧させ、気付いたことを問う。

3.　今回の活動の自己評価

○　次の活動に取り組ませるためには、新たな課題や壁を設定する必要がある。これまで啓発活動に一生懸命取り組んできた子どもたちは、当然のことながらこれまでの活動に満足しているため、他にどんな活動ができるかと問われても、なかなか思い浮かばない。このような壁を設定した後、海洋教育パイオニアスクール指定校の取組を知ることができるホームページを紹介した。子どもたちは目を見開き、興味・関心をもって閲覧する姿が見られた。この流れについては、よかったと感じる。

○　今年度は、他校の取組を閲覧している期間に、長野県松本市立安曇小学校の方から声を掛けられた。このようなこともあるのだと驚いた。安曇小学校は、信濃川の上流の水がとてもきれいであることから、この環境を守りたいと取組を行っていた。特に、プラスチック膜に覆われた農業用肥料が、マイクロプラスチックとなって環境を汚染している課題を追っていた。当校にはない視点であった。

　自分たちの視点で学校を探すと、どうしても自分たちの取組と似た取組を探しがちかもしれない。敢えて異なる取組をする学校と交流することでも、大きな学びがあることを実感した。

4.　今後の課題

○　今年度は、他校との交流が１校だけで精一杯だった。しかし、他校との交流は想像以上に多くの学びを得ることができ、視野を広げることができた。

　次年度は、可能であれば交流校を２校程度に増やし、さらなる学びを求めていきたい。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

○　特になし。